5分で分かる！

教職大学院

文部科学省

教職大学院とは？

☑ 学校現場における職務についての広い理解をもち、自ら諸課題に積極的に取り組む資質能力を有し、新しい学校づくりの有力な一員となる新人教員

☑ 学校現場が直面する諸課題の構造的・総合的な理解に立って、教科・学年・学校種の枠を超えた幅広い指導性を発揮できるスクールリーダー

の養成を行っています

教師等として勤務されている方のほかに、学部から進学した方、他の職種で勤務されていた方など、多様な方が集い、学ぶ場所となっています。
例えば、教員免許を取得していない方でも入学できる教職大学院もあります。ほかにも、在学中に新たに教員免許を取得できる教職大学院も多くあります。

教員免許を持っていなくても入学ができる教職大学院
11大学院

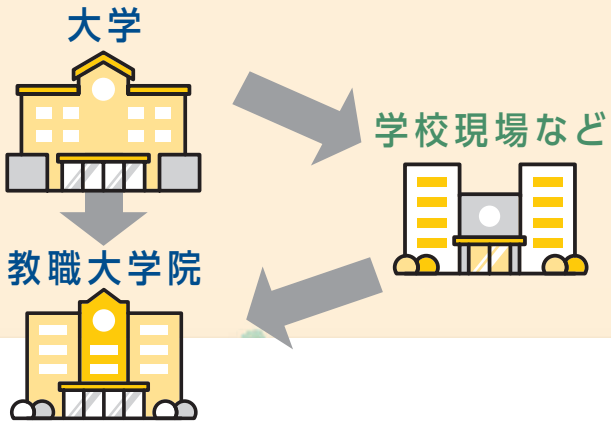
新たに教員免許を取得できる教職大学院
33大学院

教職大学院には、多様な学びがあります

全国各地に54の教職大学院

- ICTやデータサイエンスに関する専門的な学び
- 特別支援教育に関する専門的な学び
- ミドルリーダー育成
- 教科指導に関する専門的な学び
- 学習指導や生徒指導に関する専門的な学び
- 学校管理職養成
- 養護教育に関する専門的な学び

教職大学院でステップアップ



学部新卒学生の割合

学部新卒学生40%

学部新卒学生のうち、
45.5%
が**教育学部 以外の学部**
から進学しています!

現職教員学生・その他社会人の割合

現職教員学生55%

現職教員学生

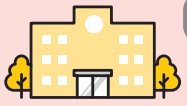
教育委員会からの派遣以外にも、自ら学びに来ている現職教員の方がたくさんいます!

その他社会人5%

様々な方が学びに来ています!

学校事務職員、児童相談員、民間企業(製造業、住宅メーカー、塾講師)退職者、大学教員
など

教職大学院修了後



学校現場などに就職

教員就職率
9割以上

初任者研修の一部(または全部)を免除している教育委員会
35%

学校現場や教育行政での指導的な立場

教職大学院修了後、
約**81%**が**5年以内**に**管理職**に!

中堅教諭等資質向上研修の一部(または全部)を免除している教育委員会
15%

インタビュー

五十嵐 夕介さん 入学時属性:教諭

現在の役職
東京都豊島区立西池袋中学校(保健体育)主幹教諭
進路主任や、経営支援主任として管理職支援や小中高連携、
各種学校改善にも取り組む。

経 歴

平成19年度～令和2年度	中学校教諭(保健体育)・特別支援学級担任
令和3年度	東京学芸大学教職大学院修了(1年)
令和4年度～	現職

教職大学院に入学した理由

管理職選考を受けたところ、東京都教育委員会から教職大学院への派遣の話をいただきました。勤務校から離れ、様々な教育現場を飛び回り、学校での実践と、理論を往還させて学ぶことを期待して入学しました。入学料や授業料は教育委員会から全額支給していただいていたので金銭的な負担感がなく学びに向かうことができました。また、教職大学院には実習がありますが、私の場合、一定の実務経験があったので、それをもって8単位が免除されましたので、1年間で修了することができました。

現在に生きている教職大学院での学び

どの授業でも、最新の教育課題を扱うため、すべてが新鮮でした。
学部時代は特別支援や学級経営等、一つのことを深く学ぶことはあまりなかったのですが、教職大学院で専門的な教育に関して深く勉強でき、自分の経験をもとに理論と実践の往還をしながら学ぶことで、学部教育では得られなかったものが得られました。
印象に残っているのは、バーナードの組織の3要素です。コミュニケーション・貢献意欲・共通目標の3つがあってこそ組織になれるのだということは、忘れられない一番の学びでした。現在進路主任をしていますが、この3要素に照らし合わせ、学年内での課題に気づき、解決することができています。
一人の教師として、自分の領域だけを考えて仕事をしていましたが、学校という組織、あるいは地域や社会という大きな視点で俯瞰してシステム思考等も取り入れ考えることができるようになりました。

働きながら学ぶことのできる工夫

夜間の授業やオンライン授業が7割ほどあったので、自宅から授業を受けることができるなど、とても学びやすかったです。
…→【Q&A　Q2に、働きながら学ぶ工夫について記載があります】

教職大学院を目指す方へのメッセージ

必ず約束できることは、教職大学院は楽しいということです。教職大学院で様々なことを広く深く学ぶことで教育観が大きく変わると思います。それを学校現場に還元してもらうことで、自分の力で社会や学校が変えられるという自信が生まれます。ぜひ、教職大学院で学ばれてはいかがでしょうか。

勤務校の校長

五十嵐先生は、これまでの現場経験を活かして、具体的に学校での課題や自らの得意分野について意識しながら、さらに学びを深めてきたと感じています。本校に着任し、進路指導主任の他、経営支援主任として、しっかり経営支援部、教務部と生活指導部、事務室と用務員さん達といった隙間を繋ぎ、副校長補佐をしてくれています。教職大学院は、実際に様々な実践を深めることができるので、自分の自信につながると思います。保護者対応や、周りの同僚と議論をする際も、裏打ちのある説明をしており、これはまさに教職大学院での経験があったからこそできることではないかと思います。

＜教職大学院について＞東京都教育委員会より

教職大学院で学んだ先生方は、理論を学んできたことで、学校組織の中で自分が迷わず提案したり、周りの先生方に話ができたりと自信につながっています。修了後の所属長からは、高い評価、肯定的意見を多くいただいており、教職大学院での学びを現場で還元できています。

インタビュー

宮崎 和香さん 入学時属性:教諭

現在の役職 長崎県教育庁義務教育課　中学校人事班　管理主事

経 歴

平成12年度～平成28年度	中学校　教諭（国語）
平成29年度～令和元年度	南島原市教育委員会　指導主事
令和2年度	長崎大学教職大学院修了（1年）
令和3年度	中学校　教頭
令和4年度～	現職

教職大学院在学中の様子

1日2コマ（午前と午後に1つずつ）授業がありました。内容としては管理職として知っておかなければならないこと、例えば組織マネジメント、福祉教育、人権教育、特別支援教育等といったことを学び、考えをまとめたり、話し合い等を行ったりしていました。また学校訪問の機会も多くあり、管理職の姿や、どのように教職員とかかわっていく必要があるかといったこと等、自分が管理職になったときのあるべき姿をしっかり学ぶことができました。

現在に生きている教職大学院での学び

印象に残っている授業は、「リーダーの役割と資質」です。自分がどのような学校を作りたいのか、そこでどのような管理職になりたいのかというところについて授業を通して教授の方々から問い直しをしていただき、自分の目指す学校像等を深く掘り下げられました。教職大学院修了後、中学校の教頭を務めた際には、学校の危機管理や、ミドルリーダーになる方への指導など、多くの場面で教職大学院での学びが活かされました。
現在は県教育庁義務教育課で中学校人事を担当しています。担当の地区を受け持っているので、その地域の管理職や教職員の状況を知るということを第一に考えながら、市教委の担当の方と協力して学校訪問をしたり、新任校長、教頭への研修等、研修会の指導助言を行うといった形で、教職大学院で学んだ内容を活かしています。

教職大学院を目指す方へのメッセージ

教職大学院に行くことで、自分自身が持つ教育観等が掘り返され、これまでとは違う視点で物事を考えることができました。人と人との付き合いも広がっていきますし、やはり学ぶ楽しさや、「こういうことも実際の教育で活かせるのだ!」といった新たな視点で教育を見つめ直す機会にもなり、貴重な経験ができるので、教職大学院に行くことはメリットになると、ぜひ伝えたいです。

＜教職大学院を目指す方へ＞長崎県教育委員会より

教職大学院で学ぶことで理論に基づいた実践力が身につくので、その知識・経験を活かして、ぜひ子供達のために活躍してほしいと考えています。管理職を目指す方には「果たして自分に管理職が務まるのか」という自信のなさから、一歩踏み出せない方もいるため、そういった方には「こうした所で学ぶ機会もありますよ」と勧めていきたいです。

インタビュー

竹下 早慧子さん 入学時属性:学部新卒学生・教員養成大学出身

現在の役職 徳島県徳島市立川内北小学校教諭

経 歴

平成29年度	鳴門教育大学学校教育学部卒業 (学部4年生時点で教員採用試験に合格)
平成31年度	鳴門教育大学教職大学院修了(2年)
令和2年度～	現職

教職大学院への入学、在籍中の学校とのかかわり

私の所属コース(小学校教育専修　学校教育実践コース)は、教職大学院を含めて6年間で学びを深められるということでしたので、学部の頃から教職大学院への進学を志望していました。大学4年次に教員採用試験に合格し、教職大学院在学中に教員採用試験対策の時間は他の活動に使うことができましたので、大学院2年次には実習校でボランティア活動(週3日フルタイム)をしていました。副担任のような形で、担任の先生が忙しくて対応できない部分のサポートや、職員会への参加と、教職員と同じように活動をしていました。学校現場の仕事の流れを理解できたので、実際に自分が学級をもった時にも戸惑うことは少なかったです。

経済的な負担軽減

学部時代にも、奨学金を借りていましたが、教職大学院でも継続して借りていました。論文を執筆し、それが認められたので修了後に奨学金の免除がされました。奨学金の負担がなくなり、とてもありがたかったです。

…→【Q&A　Q4に、経済的支援について記載があります】

現在に生きている教職大学院での学び

1年次に授業づくりについての授業があり、小グループに分かれて授業研究、模擬授業をしました。同期の学部新卒学生のほか、現職の先生方とも同じグループでしたので、先生方が授業づくりで気を付けていることを気軽に聞いたり、実際の先生方の振舞い方を見たりすることで、授業づくりの方法への学びがとても深まりました。
修了後に配置された学校では、ちょうどコロナが流行り始め学校現場も混乱していた時だったのですが、様々な県に修了生仲間がいたため、情報を共有しながら、より良い取組を模索することができました。
現在は小学1年生の担任をしています。今後はさらに、個々の子供達への支援や、生徒指導面でどのような声掛けをしていけば子供達がより過ごしやすくなるのかというところについて、教職大学院での学びをより活かして考えていきたいです。

教職大学院を目指す方へのメッセージ

教職大学院の2年間があるとないとでは大きく違いました。担任としての責任というのが、実習生の時は担任の先生に背負っていただいていて、あくまで補助という形でしたが、それでも担任の先生のしていることを代わりにさせていただけることも多かったです。温かい支援がある中で、実践的なことができるというのが非常に良かったと感じています。そんな中で、課題を振り返ったり、研究をする時間が取れるのが教職大学院の強みだと思います。多くの知識や経験を得られ、人脈も広がっていくため、お金には代えられない学びが得られます。より深く学ぶことで、教員人生も豊かなものになると思いますので、教職大学院に入ってみることをお勧めします。

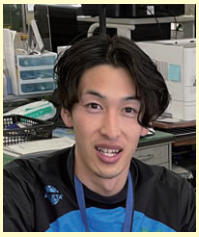
勤務校の校長

竹下先生は新任で着任された時からフレッシュな中に非常に頼もしさがあると感じていました。教職大学院での実習等で得た経験を活かして、保護者対応を始め、見通しを持って多くのことに取組まれています。
ICTや英語等も堪能で、幅広い力があるため、ぜひこれからもその能力を生かしてもらいたいと考えています。
現在教育現場は様々な課題を抱えています。その中で危惧しているのは優秀な人材の確保です。ぜひ教職大学院で専門性を高め、経験を積み現場で活躍できる人材となって、現場で子供達の笑顔のために汗を流してもらえることを期待しています。

＜教職大学院を目指す方へ＞徳島県教育委員会より

時代が変化する中で、教師も現状に留まっているのではなく常に新しいことを学び続けていく必要があります。教職大学院で学ぶ機会は、その方にとって必ず大きな財産になります。先生方が成長することで、その成果は現場にも子供達にも還元されるので、しっかりした目的意識・課題意識を持って、教職大学院で学びを深めていただきたいです。

インタビュー



山田 芳裕さん 入学時属性:学部新卒学生・スポーツ健康学部出身

現在の役職 福井県福井市宝永小学校教諭

経 歴

平成26年度	金沢学院大学スポーツ健康学部卒業
平成29年度	福井大学教職大学院修了(3年)
平成31年度～	現職

教職大学院在学中の学びの様子

私が在籍していた教職大学院では長期インターンシップがあり、1年目は週3回(月～水曜日)、配属先の小学校に通い、実際に授業や子供達への個別支援を行い職員会議にも参加しました。木曜は週間カンファレンスという学部新卒学生が教職大学院の先生方と実践を語り合う時間となっていました。ほかにも、月1回の合同カンファレンス(現職教員、学部新卒学生、大学の先生が意見交流する場)では、現場の先生方の実践を聞き、ディスカッションをする場がありました。
学部時代は、スポーツ系の学部だったこともあり、教育実習は教職課程の一部として最低限の期間で行いました。しかし、教職大学院では、長期の実習やインターンシップなど学校現場に入って学ぶ機会が多く、教師になった今、そこで学んだものが活きていると感じています。学部を卒業してすぐに教師になることも考えられますが、教職大学院で学ぶことで、理論だけでなく実践力も身につけることができました。

教職大学院在学中の免許取得

中学校・高校の教員免許を持っていましたが、小学校免許も取得したいと考え入学しました。教職大学院の勉強をしながらの免許取得でしたが、3年間で修了することができました。学費は2年間分だけでしたので、とても学びやすく、有意義な生活を送ることができました。

現在に生きている教職大学院での学び

教職大学院在学中には、悩みや不安を抱えた児童と接する機会があり、そこで培った経験が現在の学校での指導に非常に役立っています。採用4年目となり、「互いに認め合い、人と人とを『結ぶ』教師」という教師像を掲げ、例えば道徳の授業では、児童の意見をつなぎ、対話の中で価値づけし、全体や個人で思考する場を持つことを大切にしています。これからも、児童の生の声が飛び交い、意見や想いが紡がれていく授業を目指していきたいと考えています。

教職大学院を目指す方へのメッセージ

教職大学院では、カンファレンスで現職の先生から学校現場のお話を聞いて非常に刺激を受けるとともに、先生になる前に学校現場での実践を体験することで多くのことを学ぶことができました。また、教職大学院でしかできない経験として、実践における悩みを相談し適切なアドバイスをいただくことができ、県内外の先生とのつながりもできるといったメリットも大きいので、教職大学院に行ってよかったと心から思っています。

勤務校の校長

山田先生は教職大学院で色々な人とのつながりの中で学んできたこと、学校現場で学んで蓄積されたことを活かし、視野を広く持って教育活動に取り組んでいます。
少子化に伴い、学校規模も小さくなり教職員の数も少なくなってきている中で、現職の教員・学生を含め様々な人達と関わり実践を聞きながら学ぶことができる点で教職大学院での学びはとても充実していると思います。

＜教職大学院に期待すること＞福井県教育委員会より

・学部卒の院生は、それぞれの拠点校(いわゆる教職大学院に在籍している現職教員のいる学校)に長期のインターンとして入り、学ぶことで、実践力が高まります。
・現職教員は、所属校に勤務しながら大学の先生や同僚とともに学校に応じた課題に取り組むことで、協働的で実践的な学びができます。また、校内研究会等にも大学の先生が加わってくださることで、在学中の先生だけでなくその他の同僚の先生にも良い効果が波及していると思います。
・現職教員だけでなく、管理職が学び直しをすることで、教員全体の学びも深まり、学校全体がさらによい方向に変わっていきます。
新たな教師の学びの姿を、管理職自らが学ぶことで、学校改善にもつなげていただきたいです。

インタビュー

岩原 朋史さん 入学時属性:学部新卒学生・理学部出身

現在の役職 高知県立高知小津高等学校教諭(理科)

経 歴
平成31年度　高知大学理学部卒業
令和3年度　高知大学教職大学院修了(2年)
(教職大学院2年目に採用試験合格)
令和4年度～　現職

進学した理由

もともと学部時代は、理学部に所属しており理学部の大学院に進学する予定でした。教職はなんとなく心にありましたが、学部4年次の教育実習において、教育学部の学生と関わり、知識・スキルを高めたいという気持ちが芽生えたことがきっかけで教職大学院に進学することにしました。私は教育に関する知識や教育方法に関するバリエーションが少ないと考えており、授業設計等を学ぶため、教職大学院に進学しました。
教職大学院では、一緒に学んでいた現職の先生方からも実際の教育現場の現状を聞くことができるのが一番の利点でした。

現在に生きている教職大学院での学び

現在、所属校では第2学年の副担任をしており、校務分掌は進路指導部で、主に生徒の受験対応等を行っています。授業は主に1、2年生の、生物基礎、化学基礎、化学を担当しています。教職大学院では、生徒に思考を促すための発問や課題設定等の研究をしていたので、その視点が授業をするうえで役立っています。
また、修了生仲間とのネットワークは継続しており、行き詰まっていることなどを気軽に共有できるので教職大学院を経てよかったと考えています。

教職大学院を目指す方へのメッセージ

教職大学院に進学すると現職の先生との交流の機会も多くあるため、自分の今抱いている不安が解消されるのではないかと思います。実際私も学部生の時は授業方法等に関することで非常に不安がありましたが、教職大学院では様々な校種の先生方からお話をお伺いしたり、色々な観点から教材研究を深めることができ、実際に現場に出るうえでの安心材料となりました。

勤務校の校長

岩原先生は、教職大学院で学んだことで授業に関する知識等がしっかりしているため、初任者ながら授業の展開や構成のレベルが高いといえます。現在副担任として担任をサポートしながら、保護者や地域とのかかわり等についても学んでいます。進路指導は生徒理解が重要ですが、理論的な面は大学院で得た知識を活用し、経験の面については日々積極的に管理職や同僚教師等とコミュニケーションをとり学んでいます。
現在わが校で勤務されている他の教師についても、教職大学院に進学してほしいと考えています。

＜教職大学院に進学するのをためらっている方へ＞高知県教育委員会より

学部新卒学生は、現職の先生方と一緒に授業を受けたり、あるいは、今まで学部で身につけてきた理論を、教職大学院の実習という実践の場を通して深められ、教師になった際に自信をもって学校現場に臨むことができます。
学校現場から、いきなり教職大学院に入ることに不安を抱く先生方も多いため、高知県では、プレ期間というものを設け、大学の教員と入学前に交流し、研究内容を話し合ったり、入学後のイメージを持ってもらうようにする工夫をしています。
一度現場を俯瞰して課題を捉えることで随分と見え方が違ってきます。様々な人と関わり議論をすることで、修了生は視野が広がり、その後の実践につなげているので非常に効果があるといえます。
「学び続ける教師」として、教職大学院を選択肢の一つとして検討してほしいと思います。

インタビュー

山本 淳一さん 入学時属性:校長

現在の役職 鳥取県境港市教育委員会教育長

経 歴

昭和60年度～平成21年度	中学校教諭(美術)・特別支援学級担任
平成22年度～平成23年度	境港市教育委員会事務局　教育総務課主査
平成24年度～平成27年度	同　学校教育課長
平成28年度～令和3年度	中学校　校長　(令和3年 鳥取県中学校長会会長)
令和2年度～令和3年度	兵庫教育大学教職大学院入学・修了(2年)
令和4年度～	現職

働きながら学べる仕組み

私は学校長をしながら教職大学院に学びに行っていました。在籍していたコースでは大学教員の現任地等への訪問指導があり、また、土日や長期休みにキャンパスへ赴くなど、仕事を続けながらの受講が可能でした。同期には現役の教育長、教育委員会事務局員、小中学校の校長・教頭、学校事務職員など多様な職種の方が集まり、そうした方々との交流で、皆さんが持つ教育に対する思い、パッションを享受できたことは素晴らしい経験でした。

現在に生きている教職大学院での学び・人脈

トップリーダー育成に主眼を置いているコースでしたので、教育長になったときにどのような話を議場でするかについて、シミュレーションの授業がありました。ただやりたいという思いだけではなく、どのようなエビデンスをベースに話しているのか、現状でその町をどう把握しているのか、ということを短い時間にまとめ発表し、評価し合いました。

まだ誰も経験したことがないことに対する未知へのチャレンジをあえてやる、そうして微力ながらも教育界を引っ張っていく一員になるための練習をするという、リーダーになるための基礎や、マネジメント、リーダー論をどのように自分のものにするか、自分なりの学びをどう確立していくのかということについて学ぶことができ、大変刺激になりました。

教職大学院修了後も同期生を始め大学院関係者と縦横のつながりがあります。オンラインで研修会を開催したり、修了生同士お互いの土地へ出向いて講師役をしたり学び役になったりすることもあります。現場の校長だけで終わっていたら得られなかったであろう、こうした他県の方々との結びつきを多く持つことができています。教職大学院時代の恩師のお話で、有言実行、自分で言葉にして、それをたくさんの人に伝えることで、公約しながら実践する、そこから逃げない自分になるのだ、という言葉が強く心に残っています。教育長を拝命し機会を頂いたので、日々懸命に取り組んでいます。

教職大学院を目指す方へのメッセージ

教員一人一人がさらにパワーアップして、自分という枠を壊すことや広がりを持つことが大切だと考えています。教職大学院での学びが、それを実現するために大いに役立つことだというイメージを作ることが今後の大きな課題といえます。教職大学院は新たな気づきや学び、人とのつながりを得られる場所なので、教える立場にある人間が学ぶということを忘れないためにも、ぜひ進学を積極的にご検討いただきたいです。

VUCAの時代を生きていく子供達が、自分の目指す光や方向性を定め一歩踏み出し、勇気を出して力をつけてもらうためにも、我々教職員が現場と教職大学院の往還により得た学びを子供達や地域の中にも還元できるとよいと思います。

Q&A

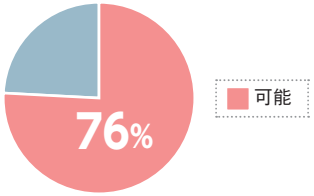
Q1 そもそも教職大学院では、どのような学びを得ることができるのでしょうか。

A1 教職大学院の教育課程は、大きく分けて①すべての学生が共通的に履修する「共通5領域」（教育課程の編成、教科等の指導法、生徒指導・教育相談、学級経営・学校経営、学校教育と教員の在り方）、②学校における実習、③各コースや専攻分野により選択される「コース別選択科目」からなります。学校現場の経験が豊富な教員と研究者教員が共同して指導するため、充実した指導体制となっています。

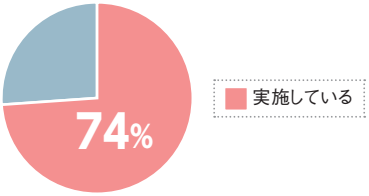
Q2 私は現在、学校で教師をしています。働きながら通うことができるような環境となっているのでしょうか?

A2 全国各地に54の教職大学院があります。現職の先生方が学びやすいように以下のような取組をしています。

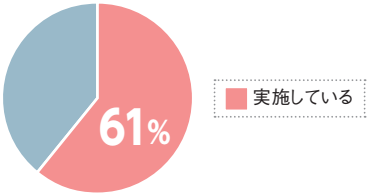
長期履修の可否（n=54）



オンライン授業の実施（n=54）



長期休暇中の授業の実施（n=54）



ほかにも・・・

- **夜間授業**：23教職大学院
- **休日（土日、祝日）**の授業:23教職大学院
- 現職教員が**1年で修了できるプログラム**※：20教職大学院

※現職教員学生については、実務経験を勘案して標準修業年限を1年間とすることができます。

Q3 教員採用試験に合格したのですが教職大学院に入学することはできますか。

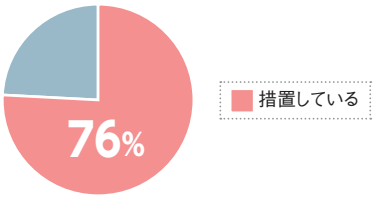
A3 入学することができます。多くの教育委員会では、教職大学院進学予定者が入学前に教員採用試験に合格した場合、採用時期を教職大学院修了時まで延長する措置をとっています。

61/68教育委員会

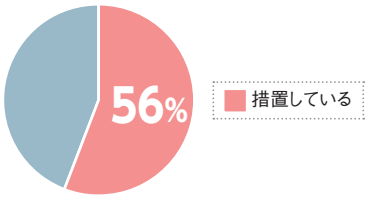
Q4 教職大学院に興味を持っているのですが、子育て中ということもあり授業料の負担が気になっています。

A4 教職大学院には、授業料の減免や奨学金制度があります。

教職大学院の学生を対象とした授業料減免制度（n=54）



教職大学院の学生を対象とした奨学金制度（n=54）



<令和3年度時点>
日本学生支援機構、各種団体、民間等の奨学金制度は含まない。

<令和3年度時点>

※本パンフレットは特記した年度以外、令和4年度時点の情報で掲載している。　※文部科学省教育人材政策課調べ

文部科学省

教職大学院

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku.htm

JAPTE 日本教職大学院協会
Japan Association of Professional Schools for Teacher Education

各教職大学院の紹介

https://www.kyoshoku.jp/about.html

各教職大学院の取組

https://www.kyoshoku.jp/efforts.php